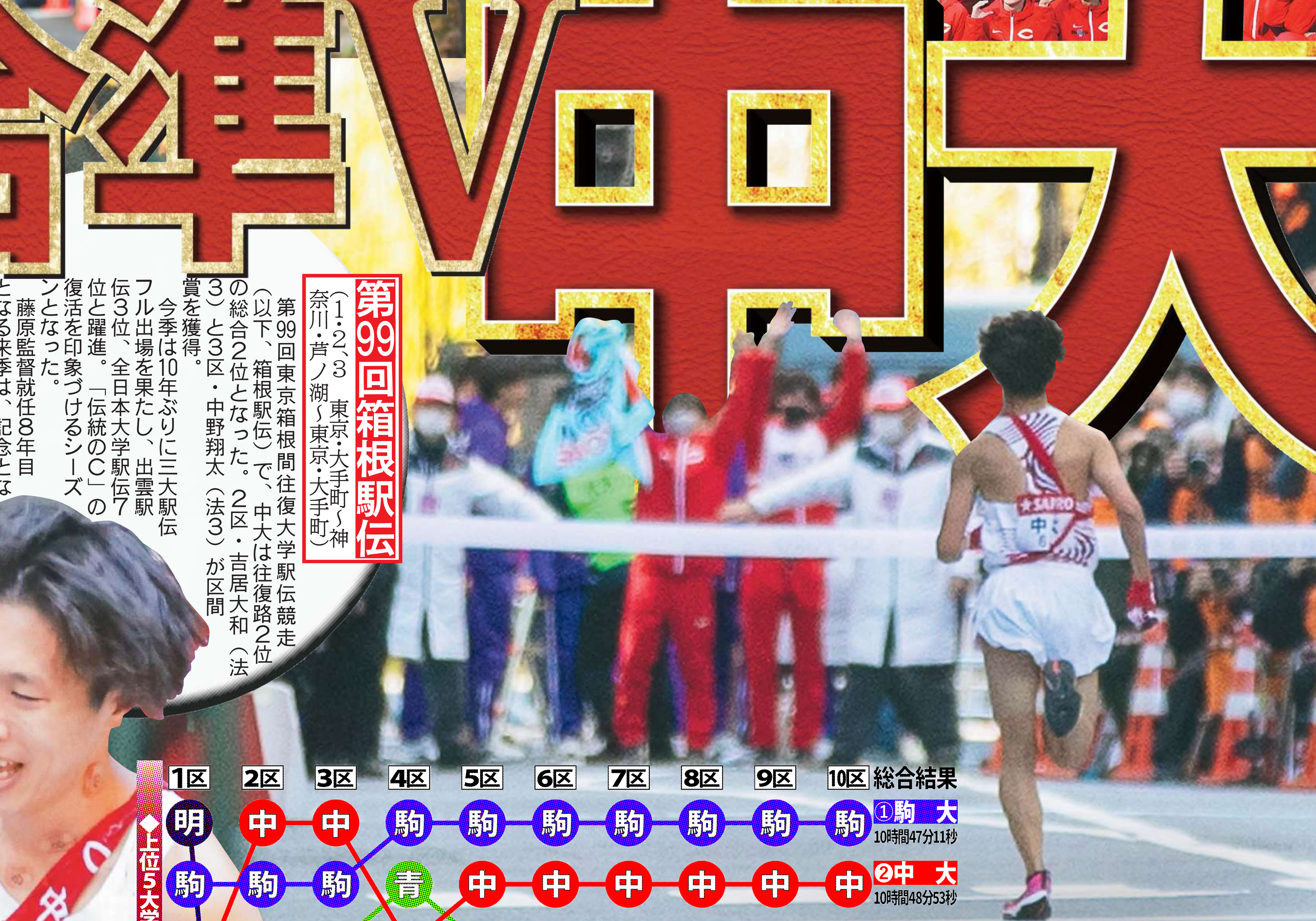
往路準V 復路準V

第99回箱根駅伝 総合準V中大

藤原監督 現役時以来22年ぶり表彰台!!



第99回箱根駅伝

（1・2・3 東京・大手町～神奈川・芦ノ湖～東京・大手町）

第99回東京箱根間往復大学駅伝競走（以下、箱根駅伝）で、中大は往復2位の総合2位となった。2区・吉居大和（法3）、3区・中野翔太（法3）が区間賞を獲得。今季は10年ぶりに三大駅伝フル出場を果たし、出雲駅伝3位、全日本大学駅伝7位と躍進。「伝統のC」の復活を印象付けるシーズンとなった。藤原監督就任8年目となる来季は、記念の100回大会で今回届かなかった総合優勝に挑戦する。

助川の左腕には盟友の名

〈フィニッシュするアンカーの助川（前）〈カメラ・若林拓実〉左はフィニッシュ直後、田井野に肩を抱えられる助川〈写真・共同通信〉〉

◆上位5大学通過順位推移◆

	1区	2区	3区	4区	5区	6区	7区	8区	9区	10区	総合結果
1	明	中	中	駒	駒	駒	駒	駒	駒	駒	①駒大 10時間47分11秒
2	駒	駒	駒	青	中	中	中	中	中	中	②中大 10時間48分53秒
3	法	青	青	中	青	早	國	國	青	青	③青学大 10時間54分25秒
4	中	山	國	東	國	國	早	早	創	國	④国学大 10時間55分01秒
5	創	創	早	國	早	法	創	法	法	順	⑤順大 10時間55分18秒

古豪復活を証明

……堂々の総合2位。目標に据えていた「総合3位以内」を達成した。表彰台は藤原正和駅伝監督が2年次の第77回大会（2001）以来、22年ぶり。指揮……長く止まっていた時計の針を進めることができうれしく思っています」と感慨深げに話した。

往路は2区・吉居大和（法3）が区間賞の走りでトップに立つと、3区の中野翔太（法3）も区間賞で首位をキープ。2年連続の5区となった阿部陽樹（文2）が2位でフィニッシュした。体調不良から突貫工事した中野は、「全日本を欠場してチームに迷惑をかけた。今回はしっかり貢献できてよかった」と安堵した。

30秒差でスタートした復路は、4年生中心の布陣でリードする駒大に迫った。4年連続の6区を託された主将・若林陽大（法4）が自己最高の区間2位。当日変更で7区に起用された千守倫央（商4）が区間4位と粘った。アンカーは最初で最後の箱根路となった助川拓海（経4）が区間3位の好走。復路も2位を堅守して駒大と青学大の「2強」構図を打ち破った。競技生活の集大成となった8区・中澤雄大（経4）は、「いろいろな方に応援されて4年間やってこられた。感謝の気持ちを込めて走りきることができた」と周囲の支えに感謝した。

新時代切り開く

最多14回の総合優勝を誇る古豪は、着実に完全復活への軌跡を歩んでいる。監督就任1年目の16年には予選会で敗退。連続出場記録が87回で途切れた。そこから、「藤原イズム」を浸透させチームを再建。前回大会6位、今大会2位と地道な強化が実を結びつつある。区間成績に注目しても中大の躍進は際立っている。全10区間を1桁順位でまとめ、計7区間で中大新記録をマーク。さらに今シーズン、部内で掲げた「自己ベスト120回更新」をクリア。主力のみならず、チーム全体の底上げに成功した。

3年生以下の布陣だった往路は来季も健在。記念の100回大会で狙うのは、28年ぶりの総合優勝だ。吉居大は、「優勝を狙うチームと3位を狙うチームの差が出てしまった。来年はもっと優勝にこだわってやっていきたい。走りでエースらしいところを見せていきたい」と力を込める。「4年生力で戦った復路の襷（たすき）を、新チームで1年かけて頂点までつなぎたい」と藤原監督。低迷期を乗り越えた伝統校が、再び栄冠を手にする未来はすぐそこだ。

（若林拓実）

中スポWEBでも詳報

吉居大 W区間賞 中野翔

◇吉居　大和（よしい・やまと）2002年2月14日生、愛知・田原東部中→宮城・仙台育英高。ベスト記録は5000㍍：13分25秒87、1万㍍：28分03秒90。

中継所手前でトップに躍り出る吉居大（代表撮影）

全箱根ファン魅了

全ての箱根ファンを魅了する走りだった。花の2区を任された吉居大は、1㌔手前で田澤廉（駒大・4年）との9秒差を詰め、3㌔すぎに首位に浮上。中盤、田澤と近藤幸太郎（青学大・4年）に抜かれ、厳しい表情を見せたが、同郷である近藤の背中に食らい付く。残り2㌔地点で近藤をかわし、最後の坂に差し掛かった。「本当に苦しくて、ペース上げられないかなと思ったんですけど、一緒に頑張ってきた仲間が待っている。中野に先頭で走ってほしいという気持ちで」と、執念のラストスパート。田澤を抜き去り、戸塚中継所に飛び込んだ。1時間6分22秒は藤原正和駅伝監督の中大区間記録を上回り、中大勢20年ぶりの2区区間賞。「三大駅伝全てで区間賞を」と、今シーズン何度も口にしてきた目標を達成した。

不安抱え苦しんだ

仙台育英高で指導していた真名子圭監督（現大東大監督）は「素直な性格で、吸収力がすごかった。高校3年間よりも大学・社会人長い目で成長していくのだろうと思っていました」と吉居大を評する。大学に入ってから大学1年次には5000㍍U20日本記録の樹立、2年次は箱根1区の区間新記録の更新と結果を残してきた。しかし、今シーズン前半は、大学に入って初めて走れないほどのけがを経験。不安を抱え苦しんだが、体づくりのトレーニングに集中。チームを俯瞰することで仲間の頑張りにも気付き「故障で感じたことを走りにつなげていければ」と気持ちを切り替えた。

力になれて嬉しい

「駅伝は次の走者のため、チームのためという気持ちが自分の走りをよくしてくれる」。2区の走りを「チームの力になれてうれしい」と振り返った。だが視線の先には来年の優勝、世界への挑戦がある。「走りながら近藤くんや田澤さんの強さを感じたので、もっと強くならなきゃなと思います」。吉居大の成長はまだまだ止まらない。

（鈴木咲花）

吉居大に触発!! 「僕も取るんだ」

首位をひた走る中、吉居大の区間賞獲得を藤原監督から知らされ「僕も取るんだ」と中野翔太（法3）の闘争心に火が付いた。直前の取材では、「大学駅伝を今まで走った中で、順位を全て下げてしまっている。二大エースと呼ばれているので恥じないような結果を出さなきゃいけない」と吉居大の駅伝での活躍と自分を比べ悔しさをにじませていた。

覚悟を胸に挑んだ箱根路。吉居大から1位で襷を受け、プレッシャーを感じつつも、一度も先頭を譲らず3区を走り抜き、区間賞を獲得。中大勢の3区の区間賞は上野裕一郎立大男子駅伝監督が2007年に記録した以来、16年ぶりとなった。2区で3秒差だった2位の駒大とのタイム差も10秒に広げ、レース後「『貢献しないと』という気持ちだったので良かったです」と振り返った中野翔。チームに勢いをもたらす“エース“の名にふさわしい走りで強さを証明した。

「4年生力」で復路想い繋ぐ

4年生リレー

今大会、復路を支えたのは「4年生力」だった。復路出走の5人中4人が4年生。1位駒大を追って最後の箱根路を駆けた。

4年連続6区出走となった若林陽大（法4）。監督から「自分のところで追い付くことが求められていた」というように、総合優勝を狙う重要な区間となった。勢いよくスタートし、6区内全計測点を昨年の自身より早いタイムで通過。過去最速タイムで駆け下りた。しかし先頭からは離され「監督、コーチ、チームメイトに申し訳ない」と悔しさをにじませた。

続く7区、先頭と47秒差で襷を受けとり笑顔で小田原中継所を後にしたのは同期の千守倫央（商4）。一時は1分3秒まで差を広げられるも、後半にかけて詰めていきトップと44秒差で襷を渡した。「1番走りたい区間は7区。去年若林が6区で中澤が8区だったので、同級生で襷を…」と試合前に語っていた千守。「4年生、最後の駅伝でつなげてよかったし、一生の思い出になりました」と笑顔で振り返った。

千守から襷を受け8区へ駆け出したのは中澤雄大（経4）。現役最後の走りとなった箱根路で、前半から積極的な走りを見せ駒大との差を詰めていく。途中40秒差まで詰めたが、ラストで突き放され1分5秒差で9区へ襷を渡した。「差を広げられてしまい不甲斐ない部分もあったが、自分が持てる力は出し切ったので悔いはない。競技人生が報われたかな」と笑顔でラストランを終えた。

「エース格がいない」と言われてきたこの世代。しかし「この世代は仲が良い、みんなで喜びたいからこそ頑張ってこれた」（小木曽竜盛・理工4）「団結力は歴代のどの学年にも負けていない」（中澤）というように、まさに最高の「4年生力」で箱根駅伝総合2位という結果を残し、最高の形で中大での4年間を終えた。

（井口縁）

◇実業団へ進む選手
梶山林太郎（法4）…中電工
助川拓海（経4）…安川電機
千守倫央（商4）…大塚製薬
若林陽大（法4）…花王

箱根への道 ▶▶⑯

給水係の矜持

きらびやかな舞台の裏では出走した選手を支え、ともに戦っていた者がいる。1区と6区を除く各2箇所の給水ポイントで並走し、スポーツドリンクと水を選手に手渡しする給水係だ。

9区横浜給水所で湯浅仁（経3＝写真）の給水を任されたのは同期の植村優人（経3）。「僕が走っているわけではないが緊張した。気温が上がってきて暑いのでボトルを落とさずに注意して、湯浅が最後までしっかりと走れるようにという思いで渡した」と当時の心境を振り返った。

ボトルを渡す際には、先頭との秒差を伝えるとともに、湯浅がきついところで粘れる選手だということを見越したうえで「ここから追い上げて!」という言葉を掛けた。植村の走りは当然記録として順位にもタイムにも残ることはない。しかし、この50㍍の並走は二人の記憶に深く刻まれたことに違いない。

襷をつなぐ者と力水を運ぶ者、箱根駅伝は出走した10人だけでなく彼らを懸命にサポートする給水係もまた戦っているのだ。

（古川紗菜）

箱根路でのOBの力

復路の4年生区間では昨年度の卒業生が箱根路に戻ってきた。7区の千守から指名を受けた手島駿さん（令4卒）は「めちゃめちゃ感動してます」と見守った。

卒業後も実業団で競技を続ける森凪也（令4卒・現Honda）は8区中澤への給水。昨年は走ることのできなかった箱根路だが「上位で走る楽しさを知って、活躍していってほしい」と期待を込めた。

新主将に箱根2年連続出走の湯浅 「もちろん優勝狙う」

箱根駅伝100回大会に向け新主将に湯浅仁（経3＝写真）が就任した。すでに学年リーダーの役職を担い、箱根には9区に2年連続で出走。いずれも区間一桁の好成績を残した。花田コーチは湯浅の主将就任について「藤原監督との化学反応に期待。史上最高の中大を作ってほしい」とエールを送る。湯浅自身も「素晴らしい土台を先輩方が作ってくれた。来年はもちろん優勝を狙う」と力強く決意を口にした。

チームを支えた3人の言葉

藤村燦太主務（商4）「濃くて楽しい4年間でした。こんな経験ができて本当に良かったです。特にレース前に声掛けはしませんでしたが、僕らの想いも背負って走ってくれていると感じました」

炭山遥香マネージャー（経4）「1年生の頃、予選会10位スタートから始まって、それが今総合2位で悔しがれるチームに4年で成長したというのがすごく感慨深くもあり、不思議な感覚というのが大きいです」

出納佳マネージャー（商4）「選手たちが毎日練習だったり日常生活からたくさんの努力をしてきてくれたので本当に感謝しかない4年間だったなと思います」

写真提供＝陸上競技部

全区間戦評

1区 溜池一太（法1） 1:03:02 4位
2区 吉居大和（法3） 1:06:22 1位
3区 中野翔太（法3） 1:01:51 1位
4区 吉居駿恭（法1） 1:01:49 3位
5区 阿部陽樹（法2） 1:10:36 2位
6区 若林陽大（法4） 58:39 2位
7区 千守倫央（商4） 1:03:15 2位
8区 中澤雄大（経4） 1:04:58 2位
9区 湯浅　仁（経3） 1:08:54 2位
10区 助川拓海（経4） 1:09:27 2位

▶1区溜池一太　三大駅伝で全部区間賞を取ることが目標だった。出雲は区間2位で全日本はけがで出場できず、箱根も4位と個人としては全く歯が立たない、悔しいシーズンでした

▶2区吉居大和　区間賞を獲得し先頭で襷を渡すことができてうれしい。優勝が見える位置での2位だったので、すごく手応えの残るレースだった。来年は優勝目指し最終学年として、エースとしてチームを引っ張っていきたい

▶3区中野翔太　全日本は走れず、箱根では結果を出さないと、という気持ちだった。4区、5区で楽に走ってもらえるように頑張ろうと思って走ったら区間賞が獲れたので良かった

▶4区吉居駿恭　すごく不安でしたが、なんとか走り切れたので良かった。シーズン中もっと箱根に向けた練習ができていればラストの粘りは効いたと思う。しっかりと改善して20㌔以上にも対応していきたい

▶5区阿部陽樹　往路優勝が狙える位置だったというところで逃してしまったのは少し悔しい思い。早めに追い付いた方がいいと思っていたので、気持ち早めに入っていこうと思いました

▶6区若林陽大　（往路の後輩たちの走りは）頼もしく感じました。往路を走ってくれた後輩たちには感謝の気持ちでいっぱいです。（自分の走りは）区間賞を狙っていたので、悔しい気持ちがあります

▶7区千守倫央　襷を4年生同士でつなげて本当に色々な思いが立ちこめてきて、4年生で最後の駅伝でつなげてとても良かったし、一生の思い出になりました

▶8区中澤雄大　4年間支えてくださった多くの方に感謝の気持ちを込めて走って、皆さんに見てもらうことで競技人生が報われたのかなと思います

▶9区湯浅　仁　4年生のこの4年間の思いをしっかりとつなごうと思っていた。その役割を最低限果たせて良かったです

▶10区助川拓海　率直にうれしいです。いざ優勝が目の前まで見えると欲が出て悔しいなという気持ちもありつつ、4年生として後輩たちにいいものを残せてほっとしています

100回大会優勝へカギは「欲」の浸透

記者の目

総合3位以内を狙って結果は2位。結果として藤原監督のチームマネジメントは大成功だった。レース後に明かされたのは2区吉居大を1年前から構想していたこと。中野翔に任せるという想定もあったが、2、3区はエースに任せてアドバンテージを得る狙いの中で、大エース吉居大の2区出場は大会2週間前には最終確定した。起用は見事にはまり、監督自身の大学記録を塗り替え、1年前の1区以来となる箱根路の先頭を真紅の襷がひた走ることとなった。内に秘めた計画が見事に実ったのである。

出雲駅伝の際も「実は…」という場面があった。レース後開口一番に話したのは「優勝したかった」という思い。戦前、あくまで「表彰台」に留めていた目標も、監督の中では沸き立つものがあった。「『負けないような走りをしよう』とか『勝負所で引かないように』とか、言い方を工夫してポジティブなプレッシャーが掛かるようにしていました」。優勝に足りないものを問うと、それは個々の優勝に対する「欲」だと答えた。「一部の選手だけではなく、全員で目標として捉えることが大切」だという。

前回大会の取材時「優勝を狙っていかなければ表彰台もない」と話した藤原監督。今季は度々「チャレンジャー」というように形容していたチームも、今となっては見上げても駒大しかいないというところまで詰めた。大会後「優勝を狙う大学と3位以内が目標の大学との地力の差が出た」と冷静に分析した監督だが、来季は正真正銘「優勝を狙う大学」として自負し、また外からもそう捉えられる。大会を終えて1週間。既に吉居大は例年同様渡米しトレーニングを積む。策士・藤原監督はこの1年どんな秘めた計画を実現させるのか―

【陸上競技部担当チーフ＝杉浦瑛俊】

箱根駅伝２位入賞、おめでとう！

第 100 回大会で優勝へ！！

第 99 回東京箱根間往復大学駅伝競走にて、我が中央大学陸上競技部は2位入賞を果たしました。
しかし、これは来年の第 100 回記念大会への布石に過ぎません。
選手・チーム・関係者・OB会が一丸となって、優勝・上位を目指しますので、
より一層の皆さまのご支援・応援をよろしくお願い申しあげます。

中央大学陸上競技部ＯＢ会